

ファーストエイド（直接圧迫止血）実技指導例

<到達目標>

直接圧迫止血法ができる。

<指導内容>

- 安全確認、感染防御、自己紹介及び救護の同意を行わせる。
- ハンカチやガーゼを出血部位にあて直接圧迫止血を実施させる。
- 感染予防の為、救助者役は手袋の使用またはビニール袋を手袋の代わりとして行う。

<講習展開例>

- ① 受講生を2人組にして、1人が救助者役、1人が傷病者役になる。
- ② 安全確認（周囲の観察※BLS時と同じ）を行い、傷病者に近づく。
- ③ 全身の観察（※BLS時と同じ）を行う ⇒ 上肢から出血あり。
- ④ 反応の確認（例：「大丈夫ですか？」と声をかける） ⇒ 反応あり。
- ⑤ 自己紹介を行い、救護の同意を得る（例：「救護させていただきます」）。
- ⑥ 救助者が感染防御を行う（手袋やビニール袋があれば使用する）。
- ⑦ 傷病者の出血部位（上肢）にハンカチやタオルなどを当てて手のひらや指先で強く圧迫（直接圧迫止血）する。



- ⑧ 同時に呼吸や皮膚の色（蒼白、発汗など）などの観察も行う。対応後は医療機関への受診を勧める。
- ⑨ 一通り実施したら傷病者役と救助者役を入れ替えて行う。

<指導上の留意点>

- ハンカチやガーゼ、手袋やビニール袋の準備が難しい場合、指導員によるデモンストラーションのみ行う。
- 大出血あり（動脈や太い静脈から持続する出血である活動性出血）の場合、BLSより止血を優先する。
- 自己紹介は、場合によって氏名を伝えず、応急手当の講習を受講済みであることを伝えるだけで良い。